

収蔵資料管理検索システムと収蔵資料デジタルアーカイブ検索ページ機能要件

種別	分類	機能要件
システム全般	システム全般	標準的な Web ブラウザ（Microsoft Edge、Chrome、Safari）で利用できるシステムとすること。各ブラウザの最新バージョンに随時対応していくこと。
		- データの登録件数、画像登録数、総容量に制限がないこと。また、総容量が増えても料金は変動しないこと。 - システムの運用、メンテナンスは受託者が実施すること。データのバックアップ、サーバ OS やアプリケーションのセキュリティパッチ適用／アップデート、サーバ状況の監視、不具合時の対応、ハードウェアの増設等安定的な運用に必要な業務を行うこと。これらに係る費用が別途必要な場合、運用費に含めること。
システム管理	ユーザ管理	- 職員ごとにアクセス権限を設定、変更できること。アクセス権限は、閲覧のみ、制限なしが資料のカテゴリーごとに設定できるものとする。利用者は ID・パスワードでログインできること。 - 一定期間ごとにパスワード変更を強制する、パスワードの英字、数字混在のみ使用可能とするといった、利用館ごとのパスワードポリシーを設定出来ること。 - システム管理者は、利用者ごとにアクセス権限を設定、変更できること。 - アクセス権限の設定は資料分類ごと、サブシステムごとに、利用不可、閲覧のみ、削除不可、制限なしが設定できること。 - パスワードを一定期間変更していない場合、変更を促すメッセージを表示すること。
	分類項目設定	- 職員が資料カテゴリーを追加、変更、削除できること。 - 入力項目は利用者側で自由に追加、変更、削除できること。 - 入力項目のサイズは、利用者側で変更できること。 - 入力時のルールや注意事項をシステム管理者が項目ごとに設定できること。設定した内容は、入力画面で該当項目にカーソルが移ったときに表示されること。
	データ一括処理	複数の資料を一度に登録、更新できるデータ一括処理機能を備えること。Microsoft Excel 形式、CSV 形式、TSV 形式に対応すること。Excel の最新バージョンには随時対応すること。
	データ一括出力	データ出力機能では、すべての項目または任意の項目の選択により検索結果を考慮した出力が行えること。検索条件がない場合は、基本登録されている全件数を対象とした出力とすること。出力する項目は 30 項目以上指定・選択できること。出力形式は Microsoft Excel 形式、CSV 形式、TSV 形式が選択できること。
資料管理システム	検索機能	検索機能は、任意のキーワードに対してすべての資料項目を横断して検索できる「キーワード検索」と任意の資料項目に対して検索できる「項目指

テム		定検索」をそなえること。 ・ 項目検索は、検索文字列に対して「含む」「含まない」「完全一致」「前方一致」「後方一致」「以上」「以下」から選択できること。 ・ 検索結果の一覧表では、表示する項目を利用者が自由に設定できること。 ・ 検索結果の一覧表では、項目名をクリックすることで、昇順／降順の並べ替えができること。 ・ 検索結果の一覧表では、1画面に表示する件数の切り替えができること。 ・ 検索した条件に名前を付けて保存、呼び出しができること。 ・ 検索結果の一覧表から任意のデータを選択して、絞り込みや除外ができること。 ・ 検索結果の一覧をリストとして名前を付けて保存し、そのリストを呼び出すことができること。
	登 録 機 能	・ データの新規登録画面から、新たなデータを登録できること。 ・ データの詳細画面に表示されたデータを上書きし、データを更新できること。 ・ データの詳細画面から、当該データを削除できること。 ・ データの一覧画面から任意のデータを選択し、データを一括して削除できること。 ・ 文字情報の登録においては、手入力だけではなく、選択肢で入力できること。選択肢を変更、追加、削除することができること。 ・ 多数の項目をデータのセットとして辞書的に登録し、そのセットをまとめて登録できること。 ・ 資料の作者や寄贈者等については、人名表記の揺れなどを防止するため、人物情報サブシステムに登録したデータから呼び出して入力できること。 ・ 資料に対して画像を登録できること。画像データは1ファイルあたり25MB 程度を上限として点数の制限なく登録でき、システムでの運用を想定し、登録時に自動的にリサイズすること。 ・ 資料に対して、3D オブジェクトデータを登録できること。登録後、同じ画面上で3D 画像を自由な角度で回転させられること。さらに専用ビューアをポップアップさせて大きな画面で閲覧、回転させられること。 ・ 資料に対して、10,000pixel×10,000pixel の大容量画像を登録できること。 ・ 資料に対して、PDF ファイルを登録できること。 ・ 資料に対して、YouTube の動画リンクを登録できること。
	出 力 機 能	・ データ出力機能では、すべての項目または任意の項目の選択により、検索結果リストの出力が行えること。 ・ 出力形式として、Microsoft Excel 形式、CSV 形式、TSV 形式が選択できること。 ・ 検索結果一覧から、画像をダウンロードしたいデータを選び、画像データを一括してダウンロードできること。 ・ 資料・作品カードやラベル、対外文書など、利用館独自の書式をシステム上で自由に作成でき、作成した書式をシステムに登録、その書式を指定して利用館独自の帳票を出力できること。
	資 料 管	・ データベースは、カテゴリー毎にそれぞれ別個の分類に分けて運用できる

	理	こと。 ・ 分類は必要に応じてシステム管理者が追加できること。 ・ 資料に付随する、画像ファイル及び画像情報、貸出履歴、修復履歴、来歴、移動歴、参考文献が複数登録できること。 ・ 検索結果の一覧は、文字情報／画像情報／文字画像情報の3パターンで切り替えができること。 ・ 資料画像は部分拡大表示およびスライダーバーによる拡大率の変更ができること。 ・ 資料画像は複数登録ができること。登録した画像ごとにインターネット公開可否が設定できること。
	名 簿 ・ 人 物 管 理	・ 寄贈者などの人物に係る情報を人物データとして登録でき、資料管理や貸出・展示管理などでデータを呼び出して利用できること。 ・ 人物管理では、その人物に登録されている資料情報一覧が表示できること。
	貸 出 ・ 展 示 管 理	・ 資料の利用（展示・貸出など）、閉架・開架、現在の状態（予約中／貸出中／返却済）を管理できること。 ・ 資料利用に関する概要を登録、保存後に、その利用の対象となる資料を登録できること。 ・ 同じ資料に対して予約、貸出期間の重複が発生しないよう制御機能を有すること。 ・ 資料が入庫・返却された際、資料利用（展示・貸出）の場合は、それぞれの資料の出品歴（貸出展示履歴情報）、修復の場合は修復歴が自動的に作成されること。 ・ 資料の移動（入庫・返却）があった場合、該当資料の移動歴が自動的に作成されること。 ・ 利用状況を「仮予約」「予約」「出庫」「入庫」のステイタスに分けて登録することができること。
資 料 公 開	資 料 デ ー タ ベ ー ス 公 開	・ 一般公開可能な資料情報については、インターネット上での公開を行えること。 ・ インターネット公開画面は、検索トップ＞検索結果一覧＞検索結果詳細の3段階の画面を基本とすること。 ・ 検索トップだけでなく、検索結果一覧、検索結果詳細のいずれにも固有のURLが割り振られること。 ・ インターネット公開画面の検索トップで使う検索項目、検索結果一覧で表示する項目、検索結果の詳細で表示する項目を、編集画面で自由に設定できること。 ・ グローバル IP アドレスを指定することによって、限定的にインターネット公開が行えること。 ・ インターネット公開ページに ID、パスワードを設定することによって、限定的にインターネット公開が行えること。 ・ インターネット公開の資料詳細画面では、画像が表示されること。また、画像がない場合はそのエリア自体を表示しないか、「No Image」の画像を表示するかを選択できること。

		・ インターネット公開の資料詳細画面では、資料1点につき登録された複数の複数の画像を公開できること。複数の画像を公開する際は、画像送りボタンで表示する形式と、登録画像のサムネイルを並べて表示する形式を選択できること。 ・ 資料に対する3Dオブジェクトデータを公開できること。 ・ 資料に対するYouTubeの動画リンクを公開できること。その際、画像エリアにYouTube動画のサムネイルと再生ボタンが表示されること。
	ジャパ ン サ ー チ 連 携	・ 国が運営する文化資源デジタルアーカイブのプラットフォームであるジャパンサーチ (https://jpsearch.go.jp/) に対して、設定によりデータを自動的に公開できること。
	ガ イ ド ア プ リ 公 開	・ 一般公開可能な資料については、スマートフォンのガイドアプリでの公開を行えること。 ・ ガイドアプリでは館のプロフィールを画像とともに公開でき、画像や文章を編集できること。また、プロフィール画面では館のホームページへのリンクが表示できること。 ・ ガイドアプリでは展示資料の番号をテンキーで入力することで当該資料の解説画面に遷移し、解説画面では文字、画像、音声、動画（YouTubeリンク）を表示できること。 ・ ガイドアプリは多言語対応していること。